

共に育つために求められているレジャー・レクリエーション

パネリスト 酒井妙子（手づくりほいく研究会）
村田明子（兵庫県社会福祉協議会）
吉田圭一（武庫川女子大学）
コーディネーター：高橋 伸（国際基督教大学）

大会テーマ「共に育つために求められるレジャー・レクリエーション」のもとに開催されるシンポジウムは、テーマ決定過程で練られた次の3つのキーワードを中心に展開する予定である。

1. 子ども、遊び
2. 地域、住民、
3. 余暇、将来像

手づくりほいく研究所代表の酒井妙子氏は、子どもの遊び環境の整備を中心に、子どもの遊び現場を見てきている。特に、子どもは「遊びの天才」という表現についての問いかけを始め、遊びの成立要素の検証、子どもにとっての遊びと大人が考える子どもの遊びの考察、遊びは子どもに必要なか、必要な遊びとは何かについて問い直している。本シンポジウムでは、「子どもの遊びの現状」を中心にご報告とご提案をしていただく。

兵庫県社会福祉協議会総務企画部主任の村田明子氏は、地域と社会福祉を主に日々の業務に携わっている。他方、高齢者の介護予防や心身の健康保持のための各種体操の啓発にも積極的に関わっておられる。社会福祉士としての幅広い現場経験をもとに、本シンポジウムでは、「地域福祉の推進に福祉現場としてどのように取り組むか」を中心にご報告とご提案をしていただく。

武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科教授の吉田圭一氏は、レクリエーション上級指導者、レクリエーション・コーディネーターとして長年日本レクリエーション協会や兵庫県レクリエーション協会を支えてこられた。また、各種種目の指導技術の実践的研究だけでなく、レクリエーションの定義づけ、ワークシェアリング、そして余暇（自由時間）の変化などの理論的研究にも携わっている。本シンポジウムでは、「さらに増加する余暇（自由時間）」を中心にしたご報告と問題提起をしていただく。

コーディネーターには、国際基督教大学教養学部助教授高橋伸氏にお願いした。国際的なキャンパスで国際色豊かな学生たちを教育している幅広い視野を活かしたコーディネートをお願いした。

これらの意見やそれを受けての活発な討論を通して、ご自身の研究を振り返り、再認識や新たな着想へのきっかけとなるなど、今後の研究活動あるいは教育活動に寄与できたら幸いである。

なお、シンポジストの発表概要は次のとおりである。